



# 奈良町にぎわい通信

Vol.7

二〇一五・十一月号

発行  
奈良町  
にぎわいの家





町家講座「町家の耐震」について  
沢山の画像でわかりやすく。



茶粥の資料から



第1回「暮らし講座」は「茶粥」  
民俗の視点から奈良の「食」を。



日本を代表する馬頭琴奏者、  
嵯峨治彦コンサート。  
豊かな音色に一同、うっとり。



祝・五万人！（10/23）  
東京から、正倉院展にお越しのお客様。  
田中館長から記念品を！

## 奈良町にぎわいの家 10月のイベントから



にぎわいちんどん、  
中々の演奏！

ならまちわらべうた  
フェスタ・初参加！



倍巖実行委員長、  
開会宣言！



←スタッフが作った  
メダル！



折紙ワールド、大人気！



紙すもう大会、自分で作ってから、  
試合です！



横綱誕生！



けん玉名人、矢野先生の  
けん玉検定に行列が。

二〇一五 わらべうたフェスタ にぎわいレポート！

快晴の空の下、わらべうたフェスタが開催され、にぎわいの家にも、たくさんの子どもたちが遊びに来て下さいました。

紙相撲大会！自分で折り紙で紙相撲を作り、土俵で対決。小さな子が大きな子に勝てる！それが紙相撲の面白さ。「はっけよいい、のこった！」ドンドコドンドコ「キャー、ワー、ヤッター」の聲が大広間に響きました。

にぎわいチンドン参上！「とぎい、とーぎい…」と、にぎわいの家を紹介し、音楽を演奏しながら奈良町をねり歩きました。道中、通り掛りの子どもたち、一緒に歌ってくれたり、近づくと逃げて行ったり、賑やかな色と音が奈良町に響きました。

けん玉体験！けん玉名人の矢野博幸先生の指導のもと、子どもたち真剣勝負。できなかった技ができるようになってきた時の子どもたちの笑顔！それが何にも代え難い素敵な宝物。

子どもはもちろん、大人も子供たちと一緒に「わらべ」になって、遊んだ一日になったのではないのでしょうか。自分の手や体を使って遊ぶ。自分で遊びを作る。遊ぶ時は思いっきり遊ぶ！子どもたちのそんな時間を大切にしてあげたいなど改めて思った一日でした。

西村智恵(奈良町にぎわいの家・スタッフ  
にぎわい・ちんどんリーダー)

にぎわいの家スタッフに加え、楽器のできる有志の皆さんが、ちんどんに参加、「天然の美」伊ザエさんなどの曲を練習して本番となりました。皆さん、ありがとうございました。

子どもたち、笑いながらも...こわい？



奈良町にぎわいの家では、二十四節気オリジナルスタンプと節気ごとの歌で皆様をお迎えます。

短歌...喜寿隆子(歌人・ヤママユ編集委員)／書...逢香(奈良教育大学)



### つし二階、アートに変身！

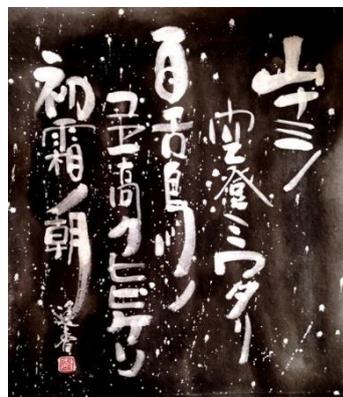
入口すぐ、表屋の二階は、厨子(つし)と呼ばれる、天井の低い、町家ならではの独特の空間です。この空間を更に味わっていただこうと、奈良在住のアーティストの方に、つし二階とのコラボをお願いしました。(協力・奈良アートプロム)  
第一弾は、音風景研究家、岩田茉莉江さんの『おとたまり～奈良の音もよう』。  
手前の部屋には、岩田さんが聞いた奈良の音が、スケッチで表現されています。奈良のどこで聞いた音かも書いてあるので皆さんもご存じの音の場所がきっとあるはず。  
また、奥の部屋は、小さく開けた穴から入る、かすかな光の世界…。耳を澄ますといろんな奈良町の音が聞こえます。  
つし二階の新空間体験へ、どうぞ、お越しください！  
(11/29まで開催)

山なみの空澄みわたり百舌鳥のこゑ

高くひびけり初霜の朝

晩秋の澄み渡った秋の空気、山の稜線がくっきりと見え、初めて霜がおりた朝に、百舌鳥の音が高く響いています、というお歌。百舌鳥は、秋には縄張りを確保するために、高い声で鳴くとのこと。耳をすまして、季節ならではの鳥の声を聞く感性…。忙しい中にも持っていたいですね。

奈良町にぎわいの家  
二十四節気  
オリジナルマーク「霜降」  
デザイン・金田あおい



# 事務局だより

2015  
11月号

町家とアート

新たな価値を生むために

事務局長 藤野正文

奈良町にぎわいの家では10月から11月にかけてのイベントラッシュもほぼ終盤になり、暖かい日差しが欲しい季節になってきました。10月18日の「わらべ歌フェスタ」には、千人を超える方が来館され、10月末には開館六ヶ月で来館者五万人を越えました。11月の終わりまで、秋ならではの様々なイベントを開催いたしますので、多くの方々の来訪をお待ちしております。

10月末から新たな試みを始めました。表屋のつし二階で、奈良アートのプロムの協力を得て、現代アートの常設展を開催しております。来館者が少し町歩きの際から離れて、天井の低い畳の間にたたくみ、それぞれの感覚で現代アートを楽しんで頂けたらと思います。ほぼ一月毎に展示内容が変わりますので、現代アートに関心のある若い方々の奈良町の人気スポットになればとも思っています。

る空間、としてしつらえたいと思っ  
ています。

歴史的な地域におけるまちづくり（持続可能な発展）には、地域がつくられてきた文脈、地域の個性を丁寧に読み解き、「現代の視点」でこれを受け継ぎ、地域と共有しながら、その価値を次の世代に更に伝えることが最も大切なことです。現代の視点でまちに込められた「遺伝子」を意識的に読み解き、意識的に伝える。その触媒として「現代アート」の役割があります。また、「まち」はアートの実験の場、芸術の発表の場、芸術家を孵化する場、さらに「新たな価値を創造する場」でもあったはずです。

そういつた視点をもって、作家さんやコーディネートする方の協力を得、現代アートの常設展を奈良町にぎわいの家で開催しております。この試みは始まったばかりで、手探り・試行錯誤もあります。多くの方々の参画や温かいご意見・ご助言を頂戴できれば幸いです。

にぎわいの家も冬支度。受付にガラス戸が入りました。



建具屋さんの鮑(かんな)の音が心地良く。



## 外国のお客様、にぎわいの笑顔！

スタッフがお花を活けているのを見て、「やってみよう」と！



折紙展示、最終日、作品を持って帰っていただきました。皆さん、大喜び！中には、その場で自ら折る方も。



## 奈良町にぎわい通信vol.7

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体  
発行人...二十軒起夫  
編集・構成...おの・こまち  
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一  
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館  
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/

是非、ご参加ください。  
イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。

奈良町にぎわいの家二十四節気マークから



立冬 11/8~  
暦の上での冬

十一月の節気



小雪 11/23~  
山では雪の便りも

冬の始まりと言いながら、紅葉本番、秋の色が堪能できる季節です。奈良は和歌山につぎ、全国二番目の柿の産地。12月にかけて、これから、富有柿の美味しい季節になります。